

10月団地の言葉

「これくらい…その油断が命取り」

今年 は過去最大の強さと言われるエルニーニョの影響により台風が発生しやすくなっています。10月半ばで既に30号が発生しています。30個の台風が発生するのは13年ぶりのことです。更に今年は非常に珍しく、1月から10月まで毎月台風が発生しており、これは統計開始以来、3回目の記録だそうです。幸いにも今年、焼津市内では台風による被害はありませんでしたが、他県での豪雨災害などの状況を目にするとは人事とは思えません。

台風の前報円が日本に近づいてくると、焼津市に最接近すると予想される日を天気予報で確認し、団地工場長会の皆さんに注意を促しています。今年は「素振り」の確率が非常に高かったと思います。これは「空振り」ではなく、あくまで「素振り」とご認識下さい。多少大袈裟であっても事前の対策を怠らず、結果として「何もなくて良かった」と笑い話で済むのが最善です。以前から何度かこの紙面にも書いていますが「空振りは許されるが、見逃しは許されない」を常に意識して下さい。

さて、風水害や地震、津波といった防災対策を見直す機会があるとすれば、今年のように台風が多かったり、熊本地震のような大きな災害が発生した年ではないでしょうか。組合員各社におかれましては防災対策は抜かりなく行われていることと思いますが、今回はそれを評価する「4つの視点」についてご紹介したいと思います。まず防災対策を担当される方は、「備蓄の量」「安否確認方法」「避難訓練の内容」など、判断を迫られる場面が多いのではないのでしょうか。しかし、闇雲に決めるのではなく、「何を基準に決めるか」という評価基準が必要になります。そこで評価基準を以下の4つに分けて考えてみます。①その対策が必要な理由②期待する減災効果が得られるか、③自社の人員・体制で運用できるか、④関係者の理解が得られるか。この①④を順番に検討することで、自社に合った有効な対策を講じることが出来るようになります。判断基準が不十分なまま「他社が導入して良さそうだったから」と言う理由だけで決めてしまうと、ランニングコストが高額になったり、自社の企業規模に合わず過剰（または不足）が生じたりします。また、重厚長大な防災計画を作成しても、自社の人員や設備で運用が困難であれば社員の同意が

得られず、「対策をした」という満足感だけで実効性の無い対策になってしまいます。ぜひこの4つの判断基準を社内でも検証し、「無理なく・無駄なく・有効に」運用できる対策を選択していただければ幸いです。今月のだんちの言葉は化成工場の作品です。

◆インフルエンザ予防接種を実施◆

10月22日（木）、23日（金）に、組合事務所にてインフルエンザの予防接種を行いました。2日間で合計208名の方が予防接種を受けられました。

今年は例年より1ヶ月以上早く感染者が急増しています。普段から手洗いうがいなどの感染予防を心がけましょう。

今月の紙面

p2 10月の定例役員会／54期生修了式／技能実習生定期監査を実施

p3 62期生入国／工団連組合事務局専従者研修会に参加

p4 カツオ情報／百味窓

11月の組合行事予定

11月4日（水）

監事会

11月9日（月）

定例役員会

11月の暦

11月3日（火）

文化の日

11月23日（月）

勤労感謝の日

◆10月の定例役員会◆

去る10月13日に、10月度定例役員会が開催されました。

1 鯉節一次加工事業に関する報告等について

組合鯉節加工部門のコンサルタント会社である(株)共同にて、9月18日開催の臨時取締役会、9月29日開催の定例取締役会での審議内容が報告。原魚高騰による調達難から今後の利用が見込めないとして同部門の操業停止を決定。今後の見通しがつかないことから一時的な措置でなく、事業の終了として今後清算に着手したいとした。

その中でモノ・カネに優先してヒトの対応に着手し、従事者が不利益を被らないよう配慮するとした。その15名いた従事者については、別企業への転籍、組合内異動など全ての者について新天地が内定した。今後は動産、不動産の処分、或いは債権債務の清算を順次進めていくとして承認された。

2 排水料金改定と排水処理定期点検業務の委託について

半期に一度実施する組合排水処理事業の料金改定について、組合諮問機関の給排水委員会にて審議が行われ、委員各位より了承を得た。前述鯉節加工施設の操業停止、薬品費や水道光熱費などのコスト上昇から相応の料金上昇が考えられることから、事務局では極力これを押さえるよう計算基礎とする想定コストをあえて下げて設定。これにより上昇幅を抑制したことを委員が確認し、事務局案が了承された。

なお、併せて排水処理の状況確認として定

期的な専門業者の確認を入れたいとして、定期点検業務委託を契約するとし、より安定した処理を担保するようにしたことを報告した。

3 連絡・報告事項

「化成原料引取価格の改定について」「技能実習生第62期生の来日予定について」ほか2項目の連絡・報告事項について了承された。

◆54期生修了式◆



54期生23名の3年実習終了式は、9月24日と10月29日の2回に分けて執り行いました。

団地内企業が受け入れた12名は2023年9月29日入国であったため、第一陣として9月24日に終了式を実施しました。団地外企業が受け入れた11名は2023年10月30日入国であったため、後半の10月29日に終了式を行いました。

団地内企業受入れの12名のうち、タイ出身者は2名でした。このうち1名は帰国し、残り11名のうちタイ人1名は現在の企業に残り、その他の実習生は所属企業を離れ県外へ転職しました。団地外企業受入れの11名については、女子2名が団地内の別企業へ特定技能1号として転職した以外、全員が県外へ移るこ

ととなりました。

この期生は3年間、ほとんどの実習生が真面目に勤務し、大きなトラブルもなく、事故

や事件も一切発生しませんでした。そのため受入れ企業からの評価も良好でした。職場環境に慣れず、当初悩んだ実習生も数名いましたが、終了式では「3年間の実習を通じて大きく成長できた」と自信を持って発表する姿が見られました。

23名のうち、日本語能力試験N3合格者は8名、N2に挑戦した実習生が1名いました。技能評価試験では、初級試験は全員合格、専門級試験は1名のみ不合格で、その他は全員が合格しました。このように真面目に取り組んだ実習生たちは、今後どの企業においても努力し、評価される人材になると期待されます。それぞれが新たな道へ進み、自身の幸せをつかめるよう、受入れ側としても大きな期待を寄せております。

◆技能実習生定期監査を実施◆

2026年10月13日、実習生受入れ企業全社を対象に巡回監査を実施いたしました。3か月に一度の定期監査として、各実習実施者の実習責任者・指導員との面談を行い、実習日誌、賃金台帳、タイムカード等の記録を確認するとともに、実習生本人との個別面談も実施いたしました。

直近では技能実習生の労災事故が2件発生しており、その都度、臨時監査を行い、実習責任者と安全対策の強化について協議をしました。

今回の巡回監査の結果、各受入れ企業は法令を遵守しており、違反事例は確認されず、実習活動は概ね順調に進んでいることが確認できました。



今年前半の全国の技能実習生入国者数は76,715人であり、そのうちインドネシアからの入国者は約4割の30,454人と最多となっています。特定技能においても同様にインドネシアが最多です。当団地組合における技能実習生の在籍状況（10月13日時点）は以下のとおりです。インドネシア…62名、ミャンマー…39名、タイ…4名、合計…105名 いずれも団地内の各企業で活躍しております。

また、今月22日には新規インドネシア実習生17名が入国予定であり、受入れ企業から大きな期待が寄せられています。

◆62期生入国◆

インドネシア4期生（通算62期生）として、男子10名・女子7名の計17名が、10月22日、フィリピン経由で中部国際空港より入国いたしました。

昨年以降、インドネシア出身の実習生は来日後の評価が高く、今回も団地外企業を含む7社から受入れ希望がありました。送り出し機関では、厳正な学科試験・適性試験等を実施し、受入れ企業の条件に合致する候補者のみを面接に参加させ、約3倍の候補者の中から最終合格者を選定しております。

インドネシア政府は、技能実習生の送り出



し手続きについて、他の東南アジア諸国と比べて簡素化・効率化・合理化を進めており、受入れ側としては人員計画を予定どおり進めやすく、大変助かっております。

入国翌日の10月23日に開校式を実施し、その後1か月間の集合講習を受講したうえで、11月26日より各受入れ企業にて雇用開始となる予定です。

◆工団連組合事務局専従者研修会に参加◆

当組合を含む全国63の団地組合にて構成される全国工場団地協同組合連合会（以下、工団連）にて「組合事務局専従役員研修会」が10月上旬に開催され、当組合より水野泰成理事が出席した。

この研修会については年一回開催され、隔年で地方開催をしているが今回は工団連本部がある東京にて行われ、27組合が参集した。今回は「AI、DX等の最新テクノロジーに触れ、現状と未来を語り合う」ことをテーマとして、各方面のエキスパート4名を招聘して講義が行われた。とはいえテクニカルな知識習得に至ることを目的とするのではなく、最新鋭の技術を垣間見ると共に、AI・DX・IoT・SNS・GEO・フィジカルAIなどをわかりやすく解説していただき、全国から集まった参加者相互に、デジタルテクノロジー

ジーの利用状況や理解度・業務浸透度を語り合い、現在の立ち位置を踏まえて今後進むべき方向性をイメージしてもらうことがねらいとしている。

初日には製造現場で導入されている生成AIについての紹介や製造業務にAIを組み込むポイントについて、更にマーケティングや人材マネジメントにDXを活用し、人の出入りが激しい飲食業でSNSを活用して社員定着率を向上させたことなどをお話いただいた。

2日目には生成AIが浸透してきて「SEOは死んだのか」というところから、一歩進んでGEOをどう理解し、活用するのか、をレクチャー。そして、最後にフィジカルAIの紹介として二足・四足ロボットの実演を踏まえた製造等の現場での社会実装について勉強した。

デジタルテクノロジーがより身近にあって、情報もまたデジタルの世界（web）から得ていて、SNSは採用やマーケティングには不可欠なアイテムになっていることを実感した。更には、文字だけではなく画像や動画で見る側を囲む工夫が求められていると痛切に感じた。



2026年（1月～8月計）の輸出入 ※輸出はFOB価格、輸入はCIF価格
※財務省貿易統計データを加工して作成



カツオ

<輸出>		2026年		2025年	
		数量 t	価額 (千円)	数量 t	価額 (千円)
タイ	イ	8,936	2,349,800	8,905	1,850,075
フィリピン		2,529	717,238	1,223	299,056
フランス		25	8,481	—	—
計		11,515	3,079,774	10,142	2,152,496

<輸入>		2026年		2025年	
		数量 t	価額 (千円)	数量 t	価額 (千円)
インドネシア		15,155	4,102,544	21,762	4,579,742
タイ		725	156,003	24	3,597
ベトナム		332	71,569	809	140,296
計		16,863	4,495,083	23,246	4,858,623

FOB (Free on board)

買手の指定した本船に商品を積み込むまでの費用を売り手が負担する条件

CIF (cost, insurance and freight)

買主指定の輸入港までの運賃と保険料を付け加えた条件

※水産庁統計データ冷蔵水産物流通統計月末在庫を加工して作成

冷凍かつお月末在庫量	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2026年(単位:t)	23,177	20,120	19,320	16,751	11,796	19,631	16,689						127,484

§ 国内主要漁港市場の水揚げ (2026年1月～8月計) ※水産庁統計データ産地水産物流通統計を加工して作成

	2026年		2025年		前年比%	
	数量 t	単価	数量 t	単価	数量	単価
<生カツオ>	37,643	400 円	14,130	567 円	266%	71%
<冷カツオ>	99,153	336 円	99,459	266 円	100%	126%
<カツオ合計>	136,796	354 円	113,589	303 円	120%	117%

§ 焼津水揚げ (2026年1月～9月計)

※焼津漁業協同組合統計データ取扱高対比表を加工して作成

	2026年		2025年		前年比%	
	数量 t	単価	数量 t	単価	数量	単価
<1本釣カツオ>	12,841	393 円	18,250	361 円	70%	109%
<巻網カツオ>	33,066	290 円	38,619	223 円	86%	130%
<カツオ合計>	45,907	319 円	56,869	267 円	81%	119%

情報

百味窓

帰国生の近況について

2002年11月3日に来日し、2005年11月1日に帰国した当団地第3期生の 尹飛さんについて、先日、帰国後の状況を確認することができました。

尹飛さんは日本での3年間の研修期間中、トラブルもなく、一度も病院にかかることがないほど健康で、真面目に勤務し、会社から高い評価を得ていました。

帰国後は積極的に経済活動を行い、出身地である楚雄永仁県にて市場調査を十分に実施した上で、現地政府と土地借用の請負契約を締結しました。借用した土地のうち、約7万㎡は養魚と村の小型ダムとして整備し、約5万㎡はオリーブと栗の栽培に利用しています。さらに、残り約20万㎡はブルーベリー栽培を希望する事業者へ貸し出し、地域の農業振興にも貢献しています。

また、帰国した仲間たちと定期的に会合を開き、日本での思い出を語り合いながら、生活困難者の支援活動にも取り組んでいます。数十匹の捨て犬を保護し、飼育しているとのことで、地域社会への貢献も顕著です。

尹飛さんは「日本での研修は大変良い経験であり、いつか自分が働いていた場所を訪れたい」と話していました。